

産婦人科カリキュラム

I 研修スケジュール

1 研修スケジュール

上旬	中旬	下旬
<ul style="list-style-type: none"> ・分娩見学 ・入院患者把握 ・産褥期の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・分娩1期からの計画立案 ・入院患者の担当 ・褥婦の担当 	<ul style="list-style-type: none"> ・分娩を中心に外来から入院・分娩・退院・1カ月健診までの担当 ・超音波検査の実施
<ul style="list-style-type: none"> ・手術の助手 ・流産術の助手 	<ul style="list-style-type: none"> ・手術患者の担当 	<ul style="list-style-type: none"> ・手術患者の担当 ・超音波検査の実施

2 週間スケジュール（分娩見学は適宜）

	月	火	水	木	金
午前	病棟 超音波回診 見学	病棟回診	外来見学	病棟回診	外来見学
午後	手術助手 当直・拘束 帯同	母親学級 ケースカン ファランス	1カ月健診 外来見学 当直・拘束 帯同	手術助手	外来見学 当直・拘束 帯同

II 研修目標

1 一般目標（GIO: General Instructional Objectives）

(1) 女性特有の疾患による救急医療を研修。

切迫流・早産、子宮外妊娠、卵巣腫瘍茎捻転などの女性特有の疾患に基づく緊急性の高い疾患の病態の理解、他科疾患との鑑別、初期治療について研修を行う。また、月経困難症など、緊急性はないが、初期治療が重要である疾患についても研修を行う。

(2) 女性特有のプライマリケアを研修。

思春期、性成熟期、更年期にわたる、女性の加齢と性周期に伴うホルモン環境の変化を理解するとともに、それらの失調に起因する各々の疾患を系統的に理解し、時に他科との連携を考慮しながらの治療方針を研修する。その際、女性の精神的変化に注意を配り、できる限りオーダーメイドの治療を目指し、女性のQOL向上を目的とするプライマリケアを研修する。

- (3) 妊産褥婦ならびに新生児の医療に必要な基礎知識を研修。
妊娠分娩と産褥期の管理、ならびに新生児管理に必要な基礎知識を研修する。
また、外来管理から分娩、産褥に至る女性の心理変化を学び、その際の言動の配慮を学ぶことは、医師と患者さんの信頼関係を短時間で結ぶ技術を身に付けるに良い機会である。さらに、妊産褥婦への投与禁忌薬や検査の制限を身につけることは、すべての科において必要不可欠である。

2 行動目標 (SB0: Specific Behavior Objectives)

A 経験すべき診察法・検査・手技

(1) 基本的産婦人科診療能力

1) 問診及び病歴の記載

産婦人科の問診では、患者さんのプライバシーに触れることが多くあることから、良好な関係を初対面の時から構築する必要がある。この技術の習得をした後、問題解決志向型病歴の作成を学ぶ。

- ① 主訴
- ② 現病歴
- ③ 月経歴
- ④ 結婚、妊娠、分娩歴
- ⑤ 家族歴
- ⑥ 既往歴

2) 産婦人科診察法

- ① 視診 (一般的視診及び膣鏡診見学)
- ② 触診 (外診、妊婦の Leopold 触診法など)
- ③ 穿刺診 (Douglas 窩穿刺助手、腹腔穿刺など)
- ④ 新生児の診察

(2) 基本的産婦人科臨床検査

産婦人科診療に必要な種々の検査を実施あるいは依頼し、結果を評価して患者さんやその御家族にわかりやすく説明し、質問にもわかりやすく答えることができる。それぞれの病態で、禁忌である検査法、避けた方が望ましい検査法があることが理解できる。

1) 婦人科内分泌検査 (「経験が求められる疾患・病態」の項参照)

- ① 基礎体温表の診断
- ② 頸管粘液検査
- ③ ホルモン負荷テスト
- ④ 各種ホルモン検査

2) 不妊検査 (「経験が求められる疾患・病態」の項参照)

- ① 基礎体温表の診断
- ② 精液検査

3) 妊娠の診断 (「経験が求められる疾患・病態」の項参照)

- ① 免疫学的妊娠反応
- ② 超音波検査

4) 感染症の検査 (「経験が求められる疾患・病態」の項参照)

- ① 膣トリコモナス感染症検査
- ② 膣カンジダ感染症検査

5) 細胞診・病理組織検査

- ① 子宮腔部・頸管細胞診* 1
- ② 子宮頸部生検* 1
- 6) 内視鏡的検査
 - ① コルポスコピー* 2
 - ② 腹腔鏡* 2
 - ③ 子宮鏡* 2
- 7) 超音波検査
 - ① 経腹超音波断層法* 2
 - ② ドップラー法* 2
- 8) 放射線学的検査
 - ① 骨盤単純X線検査* 2
 - ② 骨盤計測（グースマン・マルチウス法）* 2
 - ③ 子宮卵管造影* 1
 - ④ 腎盂造影* 2
 - ⑤ 骨盤・腹腔X線CT検査* 2
 - ⑥ 骨盤MRI検査* 2

* 1 ; 必ずしも受け持ち症例でなくともよいが、自ら実施し、結果を評価できる。

* 2 ; できるだけ自ら経験し、その結果を評価できること、即ち、受け持ち患者さんの検査として診療に活用すること。

(3) 基本的治療法

薬物の作用、副作用、副効用、相互作用について理解し、薬物治療（抗菌薬、副腎皮質ステロイド剤、解熱薬、麻薬、漢方薬を含む）ができる。

ここでは特に妊産褥婦に対する投薬の問題、治療をする上での制限などについて学ばなければならない。薬剤の胎児への影響、胎児の器管形成と臨界期、薬剤投与の可否、投与量に関する特殊性を理解することが全ての医師に必要である。

また、思春期、更年期、老年期における投薬では、既往歴や合併症の有無を把握し、生活歴などをも含めた判断のもとに投薬する知識も必要とされる。

- 1) 処方箋の発行
 - ① 薬剤の選択と薬用量
 - ② 投与上の安全性
- 2) 注射の施行
 - ① 皮内、皮下、筋肉、静脈、中心静脈
- 3) 副作用の評価ならびに対応
 - ① 催奇形性についての知識

B 経験すべき症状・病態・疾患

研修の最大の目的は、患者の呈する症状と身体所見、簡単な検査所見に基づいた鑑別診断、初期治療を的確に行う能力を獲得することにある。

- (1) 頻度の高い症状
 - ① 腹痛* 3
 - ② 不正性器出血* 3

③ 更年期における不定愁訴* 3

* 3 ; 自ら症例を経験、即ち診察し鑑別診断してレポートを提出する。産婦人科特有の疾患に基づく腹痛、不正性器出血が数多く存在するので、産婦人科の研修においては、それらの病態を理解するように努めなければならない。これらの症状を呈する産婦人科疾患には以下のようなものがある。子宮筋腫、子宮腺筋症、付属器炎、卵巣子宮内膜症、排卵痛、排卵出血、機能性出血、骨盤腹膜炎、老人性膣炎、切迫流・早産、陣痛、常位胎盤早期剥離、子宮頸癌、子宮内膜癌等。

また、更年期における不定愁訴については、患者さんの生活背景等を理解した後、鑑別診断を行い他科疾患を否定し、的確な初期治療や生活指導ができることが重要である。

(2) 緊急を要する症状・病態

① 急性腹症* 4

* 4 ; 自ら経験、即ち初期診療に参加すること。

産婦人科疾患による急性腹症の種類は極めて多い。女性特有の疾患による急性腹症を救急医療として研修することは必須であり、産婦人科の研修においてはそれらの病態を的確に鑑別し、初期治療を行える能力を獲得する。急性腹症を呈する産婦人科関連疾患には、子宮外妊娠、常位胎盤早期剥離、進行流産、卵巣腫瘍茎捻転、卵巣出血、卵巣嚢腫の破裂、子宮筋腫の変性などがある。

1) 流・早産および正常産；「経験が求められる疾患・病態」の項で詳述

(3) 経験が求められる疾患・病態

1) 産科関係

- ① 妊娠・分娩・産褥ならびに新生児の生理の理解
- ② 妊娠の検査・診断* 5
- ③ 正常妊婦の外来管理* 5
- ④ 正常分娩第1期ならびに第2期の管理* 5
- ⑤ 正常頭位分娩における児の娩出前後の管理* 5
- ⑥ 正常産褥の管理* 5
- ⑦ 正常新生児の管理* 5
- ⑧ 腹式帝王切開術の経験* 6
- ⑨ 流・早産の管理* 6
- ⑩ 産科出血に対する応急処置法の理解* 7

* 5 ; 8例以上を受け持ち医として経験

* 6 ; 2例以上を受け持ち医として経験

* 7 ; 自ら経験、即ち初期医療に参加

2) 婦人科関係

骨盤内の解剖の理解

- ① 視床下部・下垂体・卵巢系の内分泌調節系の理解
- ② 婦人科良性腫瘍の診断ならびに治療計画の立案* 8
- ③ 婦人科良性腫瘍の手術への第2助手としての参加* 8
- ④ 婦人科悪性腫瘍の早期診断法の理解（見学）* 9
- ⑤ 不妊症・内分泌疾患の外来における検査と治療計画の立案* 9
- ⑥ 更年期障害の外来における検査と治療計画の立案* 9

* 8 ; 子宮および卵巢の良性疾患のそれぞれについて、受け持ち医として2例以上を経験

* 9 ; 1例以上を不妊症・内分泌疾患の外来における検査と治療計画の立案

3) その他

- ① 産婦人科診療に関わる倫理的問題の解釈
- ② 母体保護法関連法規の理解
- ③ 家族計画の理解

C 産婦人科研修項目の経験優先順位

(1) 産科関係

1) 経験優先順位第一位（最優先）項目

- ① 妊娠の検査・診断
- ② 正常分娩第1期ならびに第2期の管理
- ③ 正常産褥の管理
- ④ 正常新生児の管理
- ◎ 受け持ち医として8例以上を経験する
- ◎ 必要な検査、即ち超音波検査、放射線学的検査についてはできるだけ自ら実施

2) 経験優先順位第二位項目

- ① 腹式帝王切開術の経験
- ② 流・早産の管理
- ◎ 2例以上経験したい

3) 経験優先順位第三位項目

- ① 産科出血に対する応急処置法の理解
- ② 産科を受診した腹痛、腰痛を呈する患者、急性腹症患者の管理
- ◎ 機会があれば積極的に初期治療に参加

(2) 婦人科関係

1) 経験優先順位第一位（最優先）項目

- ① 婦人科良性腫瘍の診断ならびに治療計画の立案
- ② 婦人科良性腫瘍の手術への第2助手としての参加
- ◎ 受け持ち医として、子宮ならびに卵巢の良性腫瘍をそれぞれ2例以上を経験する

◎ 必要な検査、即ち細胞診、病理組織検査、超音波検査、放射線学的検査、内視鏡的検査についてはできるだけ自ら実施

2) 経験優先順位第二位項目

① 婦人科性器感染症の検査・診断・治療計画の立案

◎ 1例以上経験したい

3) 経験優先順位第三位項目

① 婦人科悪性腫瘍の早期診断法の理解（見学）

◎ 1例以上経験したい

4) 経験優先順位第四位項目

① 婦人科を受診した腹痛、腰痛を呈する患者（不定愁訴も含む）、急性腹症の患者の管理

◎ 機会があれば積極的に初期治療に参加

5) 経験優先順位第五位項目

① 不妊症・内分泌疾患（更年期障害を含む）患者の外来における検査と治療計画の立案

◎ 1例以上経験したい